

留学生同窓生ニュース第1号 (2014年2月発行)

信州大学繊維学部の現況について

今後、定期的に皆様が卒業、修了された信州大学繊維学部の現在のようすを伝えていくことにいたします。今回は教育システムについて紹介いたします。

1910年に設置された上田蚕糸専門学校が繊維学部の前身です。4年前には盛大に創立100周年の記念事業を行いました。1949年に信州大学が発足し繊維学部が設置されました。その後、1964年に大学院修士課程が、1991年に大学院博士課程が設置されました。この間、大きな改組を何回か行い、現在は下図のような組織になっています。皆様が在籍していた頃とは大きく変わっているかもしれません。学部には学科に変えて9つの課程を設けています。この課程を学問分野ごとに4つの系にまとめて、入学試験と基礎教育を行っています。修士課程には、学部の4つの系に対応する4つの専攻が設けられています。博士課程は、工学部、理学部、農学部とともに総合工学系研究科を形成し、繊維学部の大半の教員は「生命機能・ファイバー工学専攻」に所属しています。

現在、日本の大学で、「繊維」の名前がついた学部を持つところは信州大学のみとなりました。私たち、オンリーワンの繊維学部では、「繊維・ファイバー工学」に関する幅広い分野の教育と研究に打ち込んでいます。

繊維学部の教育システム

繊維学部		大学院理工学系研究科 修士課程	大学院総合工学系研究科 博士課程
繊維・感性工学系	先進繊維工学課程(30)	繊維・感性工学専攻(34)	生命機能・ファイバー工学 専攻(15)
	感性工学課程(30)		
機械・ロボット学系	機能機械学課程(30)	機械・ロボット学専攻(28)	
	バイオエンジニアリング課程(25)		
化学・材料系	応用化学課程(37)	化学・材料専攻(64)	
	材料化学工学課程(37)		
	機能高分子学課程(36)		
応用生物科学系	生物機能科学課程(25)	応用生物科学専攻(24)	
	生物資源・環境科学課程(25)		

()内の数字は学生定員

活動の詳細は「信州大学繊維学部」のホームページ (<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/>) に掲示していますので、ぜひご覧ください。研究活動や進行中のプロジェクト、各種施設の紹介もあります。

*日本語版に比べて英語版の情報が少ない状況です。今後、改善していく予定です。

留学生の現況について

現在、繊維学部で学んでいる留学生数は次表の通りです。2012年には80名を超える留学生が在籍していましたが、現在は数が少なくなっています。繊維学部では「繊維・ファイバー工学」の勉強をしたいという意欲ある留学生の入学を歓迎します。皆様の周りに優秀な候補者がいましたら繊維学部(学部・大学院)を薦めてくだされば幸いです。

繊維学部（上田キャンパス）の留学生数（2013年10月）

博士課程	21	中国	39
修士課程	12	韓国	3
学部	9	マレーシア	2
研究生	5	インド	1
計	47	モンゴル	1
		フランス	1
		計	47

同窓生の自己紹介

母校繊維学部の思い出

中国蘇州大学 白 倫

私は中国の改革開放以後の第一期の政府派遣留学生として、1981年1月から二年間信州大学繊維学部で留学した。一人だけ最初の中国留学生で、周りには中国語を話す人がいない時代であった。指導教官嶋崎昭典先生の研究や生活までの温かいご指導や繊維学部の大勢の教職員の方々にご親切にいただいたお陰で、早く繊維学部は我が家のように慣れてきた。最初の留学生活のあれこれは、今でも昨日の事のように目の前にある。



帰国後5年目、繊維学部留学のお陰で生糸抜き取り検査と格付け理論に関する研究をした結果をもって東京大学農学部へ博士論文を提出し農学博士学位を授与された。その後1990年蘇州糸綯工学院と繊維学部両大学の姉妹校提携の一環として機能機械学科の教官に採用され3年間上田に戻り、数理工学講座で助教授、教授昇任に至った。1993年帰国後、翌年蘇州糸綯工学院の副院長に命じられ、また1997年蘇州大学と合併の機縁で蘇州大学の副学長になった。最初に繊維学部で留学して以来、三十何年間に繊維学部と蘇州大学の間を何回も行き来しながら、繊維学部と蘇州大学との間の学者訪問や留

学生交換、国際学会の共同主催などの友好交流の発展を、大変喜んで拝見してきた。繊維学部も世代交代で、若い先生達の顔も絶えず現れ、学部の発展と国際化にあたって活力と若さを示されつつある。この度の留学生同窓生ニュースの発行も繊維学部国際化へのご活躍の証拠だと思っている。

三十何年間世界が大きく変わりました。自分の研究分野も時代変化に伴い拡がり、今までの製糸システム工学研究から蚕糸蛋白質を基にした医用生体材料とその応用、生体材料に関連する生体システム工学に転換し、興味深く楽しんできた。副学長退任を機縁に2009年4月から三年間改めて上田に帰り特任教授として繊維学部バイエンジニアリング課程に入り生体システム工学を巡った教育研究に携わってきた。

三十何年間の研究教育の道を振り返ってみると日本の母校繊維学部との間でこのようなご縁に恵まれて歩んできた。これからも母校繊維学部の絶え間ないご発展を心から願って止みません。

編集後記

発行準備から時間がかかりましたが、第1号を発刊することができました。今後、年2回ほどのペースで刊行する計画です。繊維学部で学んだ友人をご存知でしたら、是非このニュースを受信するように勧めてください。

受信登録の方法は、下記の項目を繊維学部国際交流推進室専用メールアドレス (ftstnews@shinshu-u.ac.jp) まで送信してください。送信いただいた個人情報 は繊維学部事務部内で厳重管理し、外部には公開いたしません。

【お知らせいただきたい項目】

1. 氏名、2. 学部（または、修士、博士、研究生）の修了年、3. 指導教員名、4. 現在の勤務先（職種、可能であれば職位）、5. ニュースを受信するE-メールアドレス

第1号では蘇州大学の白倫先生に自己紹介の記事を書いていたいただきました。皆様方からの自己紹介の記事を歓迎いたします。自薦、他薦がありましたらお知らせ願います。連絡先は下記の通りです。このニュースに対するご意見、ご要望もお知らせください。

連絡先

繊維学部国際交流推進室 ftstnews@shinshu-u.ac.jp まで